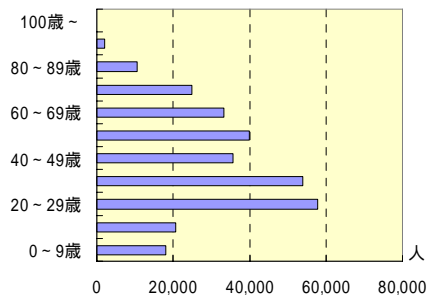


# 持続可能な活力あるまちづくり

## 第1分野

まちづくり・環境・消費者・勤労者・地域産業など

序論	1 - 1
提言	
まちづくりにおける基本構想のありかた	1 - 2
まちづくりの方向 ~住宅都市から生活都市へ~	1 - 3
まずは防災・安全	1 - 4
まちを支える交通	1 - 5
中野らしい街並み 1 : 楽しく美しい「道」空間 (まちの景観・界限性を含む)	1 - 6
中野らしい街並み 2 : 住環境の充実	1 - 7
中野らしい街並み 3 : ヒューマンスケール / 文化の香り	1 - 7
環境モデル都市・中野 1 : 環境文化の構築	1 - 8
環境モデル都市・中野 2 : エネルギーの地産地消	1 - 8
環境モデル都市・中野 3 : 緑・水・空の保全と再生	1 - 9
環境モデル都市・中野 4 : ゼロウェイストと有機循環	1 - 10
環境モデル都市・中野 5 : 区民農園とスローライフ	1 - 10
高齢社会への対応	1 - 11
定住比率を増やす	1 - 11
地域の活性化 1 : 一極集中から特色のある分散へ、自立可能な生活都市	1 - 12
地域の活性化 2 : 近隣商店街の再生	1 - 12
地域の活性化 3 : 産業の創出・生産性の確保	1 - 13
地域の活性化 4 : 心と時間のゆとり ~ 新しい生き活きとした文化	1 - 14
拠点整備	1 - 15
実現に向けた制度設計	1 - 16
資料編 (2003年11月現在での議論の中間経緯等)	1 - 18



## 生活都市・中野 - すむまちから 活きるまちへ -

### 1. 2004年の中野の今

中野区は新宿・渋谷・池袋という3つの巨大商圈に隣接しています。

さらに、区内のどこからでも、ほぼ1kmで鉄道駅に出ることができる利便性は、15.59平方キロメートルの狭い土地に30万人が暮らす、人口密度日本一のまちを産み出しました。

30万人の半数は、昼間は区外に出て、働き、あるいは学び、中野へは、すむために帰ってきます。

30万人の半数は、20～40歳の若い世代。まち自体が、実は若さに溢れた街です。

30万人の半数は、中野区に住んで10年未満です。

これまで住宅都市を標榜してきた中野区のまちは、文字通り「すむためのまち」としての機能を持ちました。しかし、コミュニティ（地域社会のつながり）は高度成長期以降弱体化したままになっています。昼間の人通りの減少という、防災・防犯の上での問題を抱えるようになり、日常生活から出るゴミは、地球環境を汚染するとともに、地域での生活者間の対立を生み出すことさえあります。

雑然とした街並みは人の心を潤わさず、道路が狭く木造住宅が密集した地域も改善があまり進んでいません。

すむことだけでは、まちは衰えてしまうのです。

働き、楽しみ、学び、くつろぐ・・・といった人間の24時間365日の活動を支えること。

そして他の人々とつながり、相手を理解し合う「心の豊かさ」が不可欠です。

これらがあって、まちと人の活動は「持続可能」となります。

それが「生活都市・中野」です。

### 2. 中野で活動する生活者の「自助」・「共助」・「公助」

中野区内で活動しているのは、行政と住民だけではありません。

その活動している場をつくって行くのが「まちづくり」です。

住民、在勤者、在学者、土地や建物の権利を持っている人、そして活動をしている法人やグループなど活動をするすべての人が参画する場である必要があります。

そして

- ・活動する人が自らの責任で行うべきこと・・・<自助>
- ・活動する人が互いに協力しつつ、行政もまた協力する・・・<共助>
- ・中野区に関わるすべての人全体の利益のため、行政が行うべきこと・・・<公助>

この区分を明確にし、着実な方策を行って行かなくてはなりません。

### 3. 中野らしい「質の豊かさ」の創造

中野の最大の財産は「活動する人」の活動です。

働き、楽しみ、学び、創り出し、くつろぎ、そして住まう。

まちは、その活動を支えるウツワそして人の活動、これらの総体です。

対立や排除から脱却し、「互いに活動を支えあう」ことが

中野区のまちなを、そして人の暮らしを持続可能なモノにしてゆきます。

物に依存する豊かさから、質と心の豊かさを創り出すのが中野のまちの21世紀への課題です。

そのための提言を以下に記載致します。

## まちづくりにおける基本構想のありかた

1. 社会構造の変化・転換が深くかつ確実に進みつつある中、今回の基本構想改定で描き出されるべきは、従来型の経済成長依存のパラダイム<sup>\*</sup>を乗り越えた、**量よりも質による豊かさ、知恵を駆使した生活のゆとりと活力、ヒューマンスケール<sup>#</sup>のまちづくり**であろう。 < \* 発想の枠組み > < # 人間の感性を大切にした尺度 >
  - ・そして、これらを実現する道筋としては、**最大の地域資源である区民自身の創造力および地域の限界性・親密度を活用することにより、域内循環による自立性**を目指す方向で、**中野の独自性**を発想の基礎に据える必要がある。
2. この方向に向けて、各課題についての**ロングスパン**の目標設定が「基本構想」の本質として必要であり、それをどこまで実現するかのプログラムとして「10年後」という言葉を用いるべきである。
3. また各課題ごとの施策は、行政責任においてなすべきもの（**公助**）、区民の自立にまかせるべきもの（**自助**）、両者のパートナーシップによるべきもの（**共助**）、いずれであるかを明記するべきである。
4. このうち、区の役割（公助）については、明確な意味を持った数値目標が設定され、PLAN + DO + CHECK + ACTION<sup>\*</sup>の着実な実行が、担保されるべきである。  
< \* 計画 + 実行 + 検証 + 改善 >
5. 全般に、数値目標化にとらわれるあまり、数値化できないソフト的内容の記述が弱体化することは避けねばならない。

### 以下、特記なきは共助の項目

文中の「\*」「#」は注釈付記、「\*\*」は注釈既出

## まちづくりの方向 ～住宅都市から生活都市へ～

1. 大量生産・消費の時代が終わり、循環型社会への方向性、「持続可能なまちづくり」は必然的な社会的要請である。過密・劣化した中野の都市環境の中では、「スクラップ & ビルド」の発想を払拭し、ソフト・ハード両面における、ストック型\*のまちづくりへと意識転換することが必要である。そのためには、たとえば既存の資源(風景資産・みどり・遊休施設などを含む)の有効利用が図られるべきである。

< \* 社会資本・環境資本を蓄えることで時間とともに価値が上がる豊かさを求める方向性 >

2. 同時に、地域の活力を支える域内経済循環、まちの自立を育むための都市環境を整える必要がある。

3. 上記のためには、土地利用の純化を避け、秩序ある混在型\*の都市計画に転換するべきである。(公助) < \* 従前の土地利用の純化に対し、その誤りを正す考え方 >

その際、土地の高度利用のみを旨とせず、場所に応じた適正利用を目指すべきである。

4. 「環境の中野」という付加価値を、生活都市への転換の戦略機軸とするべきである。
5. 将来のハードウェアニーズ\*の総量や、容積率指定については、社会変化の必然的な動向を踏まえた次の考え方を尊重する。(意見 A) < \* 建物・施設などの需要 >

既にオフィスは床面積供給過剰、住宅は戸数供給過多で過密となっている。

建て詰まりの助長などで未来に負の遺産を残してはいけない。生産人口の減少や成熟した社会のニーズに見合う適切な「グロス容積\*」と、ゆとりあるオープンスペース・緑・公共施設とで構成されるまちへと誘導すべきである。

< \* 区内の建物の床面積の合計。これを区の土地面積で割ったものがグロス容積率 >

ただし、次の考え方にも留意する。(意見 B)

活力のためには定住人口を増やす必要がある。多くの人が豊かに暮すのは良いことである。人口や資産価値が増加し活力ある中野が、都市間競争に生き残るように誘導すべきである。

### < 10年後の達成目標 >

- ・「持続可能なまちづくり」という時代の要請を社会の大半が体感的に理解している。
- ・区民全体に地区計画制度について情報が適切かつ十分に周知されている。
- ・地区計画制度を行政が本腰で推進している。(公助)
- ・混在型\*\*推進の関連条例が整備されている。(公助)
- ・地区計画の中で新防火規制区域\*についても検討されている。  
< \* 東京都建築安全条例に設けられた、防火地域と準防火地域の中間的地域 >
- ・「にぎわいの心(しん)」を実現するために、中野駅徒歩 10 分圏内の用途地域が見直されている。(公助)
- ・過大な床面積供給による矛盾や将来の負担が理解され、また回避の手だてがなされている。(多数意見 A)
- ・容積率緩和により、中野に人口が増え出し、資産価値も上がり、活力が戻ってくる。(意見 B)

## まずは防災・安全

1. 区民にとって頼ることのできる最後の防波堤として、災害時における区民の生命の安全を図る役割を担うため、避難場所の確保につとめると共に、防災体制等の充実を図る。(公助)
2. 防災的な都市空間の実現のために、耐火的な共同化建て替えや耐震補強の推進は急務である。このために 廉価な準耐火構造や 耐震診断・補強に対する助成制度の確立、およびこれらの周知が必要である。(公助)
3. 狭あい道路<sup>\*</sup>は原則として無くすべきだが、親密性などの地域要素を重視して温存する場合は、街区単位の消火栓網などの消防システムを完備する。(公助)  
< \* 4m 未満の道路 >
4. 防犯に関するまち全体としてのシステムの確立を図る。

### < 10年後の達成目標 >

- ・全区的に、震度6強に耐えられるようになっている。
- ・狭隘道路街区の消防システムが確立されている。(公助)
- ・共同化建て替えによる不燃化が進んでいる。
- ・防災防犯上 問題を抱えた過密住宅地区を解消するため、必要に応じ代替集合住宅を区が建設する。(公助)
- ・総合医療機関に隣接する位置に防災公園が整備され、災害時に備えられている。防災公園は、大規模災害時に帰宅する都民の一時滞留拠点として機能する役も担い、東京都の防災計画にも位置づけられている。(公助)
- ・防災公園は、平常時においては区民の心身の健康増進に役立っている。
- ・様々な組織を網羅した防災システムが設けられ、日頃の訓練により、住民の防災意識の高揚が図られている。

## まちを支える交通

軽快なフットワークのあるまちを実現するために、

1. 区内の南北間交通の改善と、中野駅をはじめとする鉄道駅へのアクセスの改善を実現しなければならない。(公助)
  - ～ 前者のために、西武新宿線の連続地下化を推進する。  
南北幹線道路にライトレール<sup>\*</sup>を運行する。(公助) < \* 低床路面電車 >
  - ～ 後者のために、中野駅周辺に(遠距離を含む)バスターミナル・タクシーの乗り場・地下には自転車駐輪場などを、人・自転車・自動車の錯綜を取り除く形で効率的に設置するべきである。(公助)
2. 区内の周遊性を向上させるため、ミニバスシステムを推進し、また要所間の遊歩道(自転車道併設)を整備する。(公助)
3. ライトレール<sup>\*\*</sup>、ミニバス、在来バス等、公共交通で十分に暮らせるまちとする。  
これらにより、自転車放置問題の解消も図る。(公助)
4. 生活道路における通過目的の自動車進入規制を実施する。
5. 商業振興のため、歩行者天国を増やす。
6. 幹線道路は拡幅でなく地下化も検討する。(公助)
7. 通行障害物の電柱等の撤去を推進する。(公助)
8. JRの立体的利用として高架下を駐車場とする、中野駅西口・東口を設ける、地下に環六までのバイパス(副次的な道路)を設ける、などの可能性を探求するべきである。  
(公助)
9. 駅以外の要所でも駐輪の地下化をすすめ、駐輪場不足を解消する。(公助)
10. 用途別道路使用区分<sup>\*</sup>を設定する。(公助)
  - < \* 生活道路への通過交通の進入を防ぐ等の仕組み。 >

### < 10年後の達成目標 >

- ・上記目的達成のための区道整備計画が策定されている。(至急)
- ・ 2 ~ 7 そして 9、10の一部 が達成されている。

## 中野らしい街並み1：楽しく美しい「道」空間（まちの景観・界隈性を含む）

楽しく歩ける“みち”づくりの推進のために、

1. 区内の周遊性を向上させるため、ミニバスシステム等を推進し、また要所間の遊歩道や自転車道を整備する。(再掲)(公助)
2. 全区において、石畳・煉瓦・透水性ブロックなどに更新し、ベンチや照明などの街路のしつらえを工夫し、イベント的に随時 話題性のある設営を施すなど、豊かさ・楽しさを演出する。(公助、一部 自助)
3. 街路樹の植樹範囲をふやす。(中野駅北口のさくら、南口のもも、等)  
また、区民の基金で樹木を植える。
4. 親水空間、せせらぎなどの水でつなぐ回遊ルートを設定する。(公助)
5. まちの格を下げている電線の地下埋設を区内全域で推進する。(公助)
6. 全ての道に名前をつけ、標識を設置をする。名前は住民から募集し、住民は名前にふさわしい、花のある道、彫刻のある道、などとなるよう努力する。(主として自助)
7. 生活道路を子どもが遊べる場所として開放するシステムをつくる。そのための条例などの整備を行なう。
8. 駐輪場の地下化をすすめ、まちの美化を推進する。(再掲)(公助)
9. 色彩の統一を図る。街路を指定し、一定の色範囲の外観になるように誘導する。
10. 過密地区の住居改善に伴い狭い道路が無くなるよう対策(等価交換、換地等)を具体的に進める。

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 1、3、6、7 が達成されている。
- ・ 駅半径徒歩10分以内は、全域「2」「5」が達成されている。
- ・ 4、8、9、10 のそれぞれ一部が成果を上げている。

## 中野らしい街並み2：住環境の充実

1. 狭小住宅やワンルームマンションの規制（最低面積や課税など）を強化する。（公助）  
ワンルームマンションの建築主などに、居住者の一定の管理責任を負わせる。
2. 狭小土地への建築抑制策（最低敷地面積、課税など）を強化する。（公助）  
逆に建ぺい率の余裕やその部分の緑化に対しては補助を実施する。（公助）
3. 二世帯、三世帯住宅の建築奨励策（資金の融資斡旋など）を実施する。
4. 住宅ならびに近隣の日常活動領域の高齢者対応を推進することで、事故や怪我を防ぐと共に、地域の人々との交流が人生のどのステージにおいても可能になるようにする。
5. 多世代間交流が可能な高齢者用集合住宅を創設する。
6. 余剰施設等を活用し、障がいの有無や世代等による分け隔ての無い生活をする場として多世代集合住宅を整備し、地域の核とする。

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 1～6 全てが実施されている。

## 中野らしい街並み3：ヒューマンスケール/文化の香り

1. 適切な「グロス容積\*\*」と、ゆとりあるオープンスペース・緑・公共施設とで、まちが構成されている。（再掲）（公助）
2. 区民の記憶の集積・共有の財産である街並みにつき、保全育成条例を制定する。（公助）  
土地利用制限と補助策、住民の協力で街並みの保全をはかる。
3. 過去の文化的遺産や歴史的な地域の固有性を保存し、地域資源とする。
4. 風俗店の進出を制限する。（公助）

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 1について一部成果が上がっている。
- ・ 2～4 全てが実施されている。



## 環境モデル都市・中野 1：環境文化の構築

1. 循環型社会の必然性を各施策分野にて明示する。(公助)
2. 学校教育および社会教育において「環境教育」の充実を図る。(公助)
3. 個人や組織、社会全体で「環境の保全」や「環境の再生」を目指す。

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 1、2 が実施されている。
- ・ 3 について成果が上がっている。
- ・ 10年間を「環境文化に根ざした循環型社会への転換を区民が認識するための準備(訓練)期間」、「環境市民社会へ向けて人づくりやルールづくりを行う期間」とする。  
区民は環境に配慮した生活習慣を身につけ、行政は循環型社会のシステムを構築する。
- ・ 多くのグリーンコンシューマー\*が生まれ、環境文化の構築を目指す行政と共に活動している。 < \* 環境に配慮した生活をする消費者 >

## 環境モデル都市・中野 2：エネルギーの地産地消

1. 自然エネルギー(風力・水力・太陽光等)や 小型発電など、エネルギー生産の地域分散化と環境負荷軽減を推進すると共に、消費面でも 省エネ機器を積極的に導入する。
2. 区有施設や民間大規模建築物には、条例により自然エネルギー発電設備の設置を義務付ける。(公助)
3. 環境負荷の少ない自動車を区有車へ導入し、エネルギー補給スタンドを整備する。(公助)
4. 屋上緑化や壁面緑化による省エネルギーを促進する。
5. バイオマス\*利用のシステムの導入を図る。 < \* エネルギーとして利用が可能な、まとまった量の植物を起源とする生物資源をいう。微生物による発酵など、再生可能なエネルギーの一つ。 >

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 2、3 が達成されている。
- ・ 1、4、5 について成果が上がっている。

## 環境モデル都市・中野 3： 緑・水・空の保全と再生

1. 人と自然との共生・共存を目指し、巨樹や樹林をはじめ 地域の緑を保護・育成し、区民の共有の財産として、生き物が生息できる空間を作る。  
まちなかにおいても、自然に身を浸せ、四季が感じられる中野とする。
2. 区は、緑豊かな公園やオープンスペースを努めて確保する。(公助)
3. 防災公園を、平常時において区民の憩いの場として役立てる。(再掲)(公助)
4. 公園の管理については地域への委託を推進し、地区にふさわしい公園に育ててゆく。  
(自助)
5. 公園の維持管理や来園者への説明などの役を担う「パークレンジャー<sup>\*</sup>制度」を創設する。 < \* 環境省による国立公園の「レンジャー(自然保護官)」はパトロールや自然解説、動物植物調査等を行うが、区内公園において同様な働きを区民が担う。 >
6. 公園の木、公園の花などを指定し美化をすすめる。
7. 街路樹の植樹範囲をふやす。(中野駅北口のさくら、南口のもも、等)  
また、区民の基金で樹木を植える。(再掲)
8. 屋上緑化や壁面緑化を促進する。(再掲)
9. 親水空間、せせらぎなどの水でつなぐ回遊ルートを設ける。(再掲)(公助)
10. 透水性舗装を普及させ、地下水の確保を図る。(公助)

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 3、5、6、 が達成されている。
- ・ 1、2、4、7、8、9、10、11、 について成果が上がっている。

## 環境モデル都市・中野 4：ゼロウェイストと有機物循環

1. 廃棄物の循環型処理を目指し、「ゼロウェイスト<sup>\*</sup>宣言」を行い、住民・企業・自治体が知恵を出し合い、ごみをゼロにする取り組みを行う。< <sup>\*</sup> 100%資源循環を目指し、自治体が廃棄物ゼロにするため行う宣言。環境先進都市のキャンベラやサンフランシスコが宣言している。 >
2. 4 L & 7 R<sup>\*</sup>を地域社会に浸透させる。  
< <sup>\*</sup> 4 L : Low cost(安い)、Low technology(単純な技術)、Low impact(負荷が少ない)、Local(地域内)  
7 R : リフューズ(無駄の排除)、リデュース(資源節約)、リユース(再利用)、リサイクル(再生)、リフォーム、レクリエーション(人)、レスポンシビリティ(責任) >
3. デポジット<sup>\*</sup>の試行、レジ袋の有料化、拠点での分別回収の充実等に取り組み、容器包装リサイクル法に関しては企業責任を明確にするなど、情報発信も行う。(公助)  
< <sup>\*</sup> びんなどの再利用促進のための預託金制度。 >
4. 公園等では、誰もが出しやすいフリーマーケットが開催され、不要品の再利用が活発に行われている。(自助)
5. 生ごみや落ち葉、<sup>せんていし</sup>剪定枝のコンポスト<sup>\*</sup>化、土への還元を推進する。  
バイオマス<sup>\*\*</sup>利用のシステムの導入も図る。(再掲)  
< <sup>\*</sup> 有機物の微生物による発酵・分解を利用した再資源化。土壌改良材。 >

### < 10年後の達成目標 >

- ・「1」の宣言、3、4 が達成されている。
- ・1、2、5 について成果が上がっている。

## 環境モデル都市・中野 5：区民農園とスローライフ

1. 学校や施設の統廃合等で発生する土地や未利用区有地に区民農園(コミュニティガーデン)を多数箇所整備し、生ごみや落ち葉等の有機物循環を図る場、環境・情操教育の場、高齢者・障がい者等の社会参加の場とする。(公助)
2. 区民農園では、コンポスト<sup>\*\*</sup>により美味しく安全な野菜を生産する。  
この野菜は、スローフード<sup>\*</sup>を提供するコミュニティレストランで提供する。(自助)  
< <sup>\*</sup> ファーストフードの対極。具体的には地元で生産された有機栽培野菜を使用した手作り料理など。 >
3. 生活都市中野の新しい思潮として、「スローライフ<sup>\*</sup>」という選択肢も推進する。  
< <sup>\*</sup> 都会的なストレスの多い生活の対極で、ゆとりある丁寧な生活。 >

### < 10年後の達成目標 >

- ・1、2 が実施されている。
- ・3 について成果が上がっている。

## 高齢社会への対応

1. 住宅ならびに近隣の日常活動領域の高齢者対応を推進することで、事故や怪我を防ぐと共に、地域の人々との交流が人生のどのステージにおいても可能になるようにする。  
(再掲)
2. 街路や公的施設が先導するかたちで、商業施設を含めた公共空間のバリアフリー化を推進することで、高齢になっても社会参加の機会が均等となるようにする。(主として公助)
3. 多世代間交流が可能な高齢者用集合住宅を創設する。(再掲)
4. 余剰施設等を活用し、障がいの有無や世代等による分け隔ての無い生活をする場として多世代集合住宅を整備し、地域の核とする。(再掲)

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 1、2 について大幅に成果が上がっている。
- ・ 3、4、ともに実現している。
- ・ 4の多世代集合住宅は高齢者社会参加の場としても活用され、高齢者人材センターや区民農園が併設され、心身の健康増進も図られる場となっている。

## 定住比率を増やす

1. 活力のためには定住者比率を増やす必要がある。
2. 永く気持ちよく安心して暮らせる美しいまち並みを形成することで、中野の暮らしを誇りに思う長期定住者が増えるようにする。
3. 多様な生活習慣や価値観をもった短期居住者や来訪者を、温かく受け入れる懐の深さをもったコミュニティが形成されたまちとする。  
短期居住者であっても居心地良く、地域の中にとけ込むよう工夫する。

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 定住比率が15%増えている。また、選挙の投票率は50%を越えている。

## 地域の活性化 1：一極集中から特色のある分散へ、自立可能な生活都市

1. 類型的な集約型開発でなく、中野の庶民的性格や各地域の特性を活かした、周遊型・時間消費型のまちづくりを推進する。  
産業育成に当たっては、小売業など地元との接点のある業種を重視する。
2. 時間的な余裕のある暮らし、地元で働くライフスタイル、『参業』（コミュニティビジネス<sup>\*</sup>に参加）する暮らしなどが可能な地域とするため、得意分野で起業できるノウハウの支援などを行う。＜\* 地域生活産業＞
3. それらの結果として、地元商店街がライフサービス<sup>\*</sup>やコミュニティビジネス<sup>\*\*</sup>の受け皿となるように誘導する。＜\* 生活の支援ビジネス＞
4. 地域活性化のためのNPO法人の設立を支援すると共に、ネットワーク化を図る。

＜10年後の達成目標＞

- ・ 1 ~ 4 について成果が上がっている。

## 地域の活性化 2：近隣商店街の再生

1. 地元の商店街で生活必需品や安全な生鮮三品（肉・野菜・魚）が安定的に供給されるよう、商店街が日常生活の受け皿となる仕組みを構築する。（自助）
2. 商店街で中学生が就業体験を行うなど、生きる力を蓄えるための教育と連携を図る。（自助）
3. 地元の商店街で買い物をすることが、メリットとなるようなサービスが提供され、中野で暮らし続ける満足感や安心感が高められている。具体的には土曜・日曜の営業、安心な食生活や保育のサポート、高齢者・障がい者への宅配サービス、環境負荷軽減への取り組み（ごみが出ない買い物）など。（自助）
4. 魅力的な商店の発掘・紹介を行い、区民との出会いの機会を作る。
5. 地元商店街はライフサービス<sup>\*\*</sup>やコミュニティビジネス<sup>\*\*</sup>、チャレンジショップ（住民参加の店づくり）の受け皿となる。またこれにより、「就職先」としての認知、職住・食住接近を図る。（再掲）（自助）

＜10年後の達成目標＞

- ・ 1 ~ 5 について大幅に成果が上がっている。

### 地域の活性化 3 : 産業の創出・生産性の確保

- 1 . 産業の創出、生産性の確保を目指し、「地域ビジネスコミュニティ」のまちとして、「産学協同支援（地元専門学校との連携）」や「職住接近」「食住接近」を実現する。  
「生産～流通～消費～蓄積～投資」という生活都市運営のシステム循環の確立を目指す。
- 2 . 生産者と消費者を直結するまちづくりをする。  
生産者の顔が見える安心感を売り物に、生鮮野菜等の都市での生産を実現させる。
- 3 . 情報が様々な人々に行き渡るよう、各戸に達するITネットワークを整備し、人と人がつながるインフラ（光ファイバーなどの社会資本）を整備する。
- 4 . 地元の産業や商店街が「就職先」として認知され、職住及び食住接近が実現するよう、チャレンジショップ\*\*やライフサービス\*\*産業の導入などを図る。（自助）
- 5 . 環境ビジネスを実現・推進し、環境先進区、環境立区としての情報を発信する。
- 6 . ベンチャービジネス\*を招致・育成する。＜\* 先端的なアイデアや技術で未開拓の分野をめざしている中小企業＞
- 7 . 経済特区とする可能性も検討する。
- 8 . 中野の歴史に登場した地ビールを生産し、醸造文化を継承する。（自助）

#### < 10年後の達成目標>

- ・ 1 ～ 6 について大幅に成果が上がっている。
- ・ 8 が実現している

## 地域の活性化 4：心と時間のゆとり ～ 新しい生き活きとした文化

1. これまで 芸術や芸人を育ててきた「懐の深いまち中野」として、新しい生き活きとした文化の表出に支援を行う。  
まちは、毎日が自主的イベントとなり、人の活動シーンが日常の光景となり、アート & パフォーマンス、インスタレーション\*\*のまちとなる。
2. 若年パワーを地域の活力として取り込めるよう、若者が集い、表現できるようなステージやオープンスペースを整備し、人の流れや交流を作る。  
駅前では「常に何かをやっている中野」「若い人が元気な中野」のイメージが定着し、他区の若者から羨ましがられるような中野の生活を可能とさせる。
3. 他区とは異なったり、際立ったりしている中野の文化を、区民が探し、整理し、再評価し、仕掛けを構築することにより、資源化する。  
これら新たな多くの資源が人を引きつけ、区内での人の回遊や 区外からの来訪者が増えるような取り組みをする。  
具体的には：  
有名ラーメン店の食べ歩き、  
漫画・劇画・マニア的趣味世界・等 の中野的サブカルチャー\*の紹介、  
< \* いわゆる「アングラ」を含む、傍流文化 >  
北口サンモール東側区域の猥雑さ、  
全国的に有名となりつつなる 自主製作、自主出版の流通組織の育成  
新たに練習がはじまったエイサー\*、専門学校との協働など。 < \* 沖縄の伝統芸能 >
4. 新しいスタイルの文化特区とし、官民の文化系諸施設を導入することを検討する。  
(公助)

### < 10年後の達成目標 >

- ・ 1 ～ 4 について大幅に成果が上がっている。

## 拠点整備

### A) 警大等跡地ゾーンの整備

1. 中野区の経済発展と文化の向上に向けて経済と文化の特区とすることを検討する。  
(公助)
2. 公益性と利用度の高い、区民が安全に避難できる防災拠点の公園(例: ヤンマの生息も可能なビオトープ\*)と、温泉設備等生活環境向上の付随施設を設ける。(公助)  
< \* 動植物や微生物が自然の生態系として安定完結的に機能するよう作られた場所 >
3. 警察病院は世界的レベルの施設となるよう要請し、地元医師会と区役所が区民のために人間ドック等の協定を結び、地域医療のセンターとしても機能させる。(公助)
4. 発電設備併設のリサイクル型ゴミ処理施設を中野区独自に設ける。(公助)
5. 防災上問題を抱えた地区を解消するため、複合ビルの集合住宅を区が建設する。(公助)
6. 既存樹木は可能な限り保全・育成する。(公助)

### B) 駅と南北駅前広場とその周辺(ゾーン: 大久保通りと早稲田通りの間)

1. 中野駅と警大等跡地とは一体的に整備する。(公助)
2. 駅の乗降客や歩行者と自転車等との錯綜を改善整備する。(再掲)(公助)
3. バスターミナル、タクシーの乗り場、駐輪場等を地下に設置し、地下商店街を併設する。(再掲)(公助)
4. 駅改札口を警大等跡地ゾーンに増設する。(再掲)(公助)
5. もみじ山文化センターから警大等跡地に通ずる、専用の遊歩道(自転車道併設)を整備する。(中野まつりや健康イベント、区民ふれあいの場に利用)(再掲)(公助)

### C) 情報コア施設地区の整備

1. 地域産業の再生や再構築、コミュニティビジネスの創造を目指し、産業支援情報のコアとして中野駅周辺を捉え、生活都市として必要なサービスを各地域で展開することを目的としたコーディネイト機能やビジネスフロント\*機能をサンプラザ等に整備する。 < \* 併設されているホテルのフロント的な、ビジネスに関する窓口的な役割 >

< 10年後の達成目標 >

- ・上記の多くが実現に向け進展している。



## 実現に向けた制度設計

1. 区民全体に地区計画制度について情報を適切かつ十分に周知、本腰で推進する。(公助)
2. 地区計画における住民発意などの関連条例を整備する。(公助)  
地域の自立や住民主体のまちづくりに必要な条例・規制を整備する。
3. 地区計画の中で木造密集市街地の再生産がなされないような施策を実施する。(公助)
4. 機能混在型推進の関連条例を整備する。(公助)
5. 「にぎわいの心(しん)」の徒歩圏内の用途地域を見直す。(公助)
6. まちの価値を高めるために必要な規制条例を制定する。(公助)  
例：商業地域や近隣地域での指定道路の接道1階における住宅用途禁止条例、ビルの窓ガラス等の反射規制など。
7. 商業街における建築に、間口を一定以上広く取らせるなどの制限を課す。(公助)  
商店街で一般住宅を建てる場合には、住宅地での建ぺい率を準用させるなど、まちの環境の保全を図る。(公助)
8. 道路など公的な場を私的に継続的使用をする違法行為の取締りを強化し、災害時の避難や救助活動の障害を取り除く。  
(例：自動車やバイク、自転車、ラックやコンテナ、商品、捨て看板、ゴミ等々)
9. 4m未満の道路を法規に則り4m以上とすることを厳守させる。
10. 廃棄物の「脱焼却・脱埋立(循環型処理)」を目指した「ゼロウェイスト\*\*宣言」を行う。
11. 環境汚染を防ぐために必要な条例等を整備する。(公助)  
例：住宅地等での除草剤の使用の規制など。
12. 環境保全を促進するために必要な条例等を整備する。(公助)  
例：区有施設や民間大規模建築物への自然エネルギー発電設備設置の義務化条例など。
13. 学校教育・社会教育において「まちづくり教育」「環境教育」の充実を図る。(公助)
14. 地域活性化のためのNPO法人の設立を支援すると共に、ネットワーク化を図る。
15. 全ての建物について、駐輪・駐車・ゴミ置き場の付置義務の条例化を検討する。

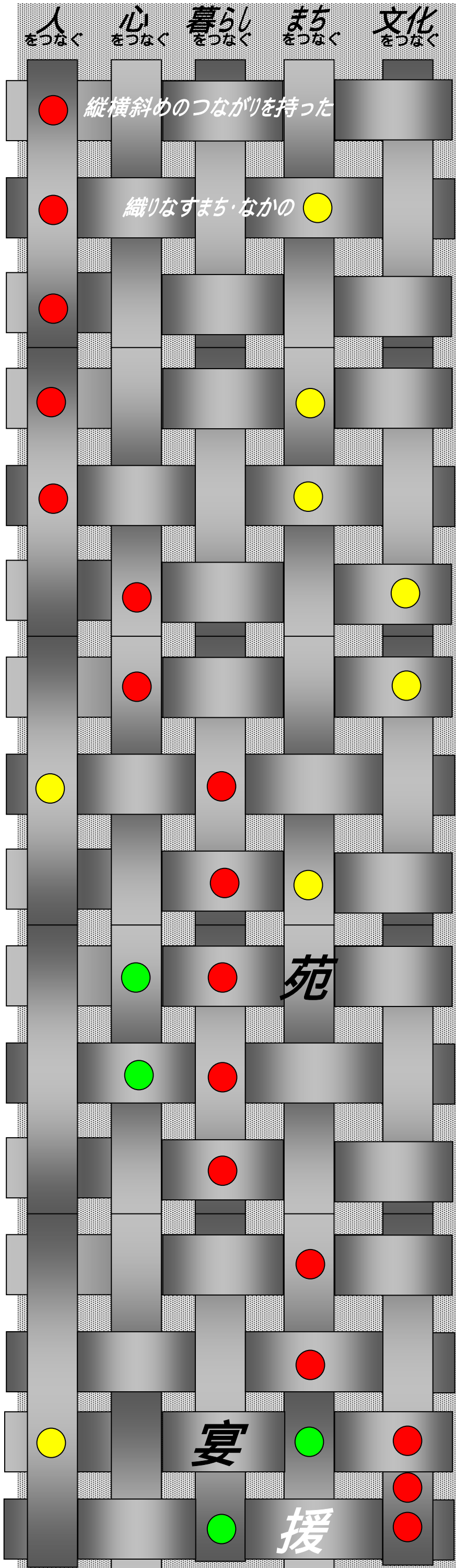
### 基本構想の実施について

1. 事業体を明確化し、経済的な裏づけをする。(公助)
2. 基本計画・実施計画は、事業年度を定める。(2年、5年、10年)(公助)
3. 基本構想策定後の検証機構を設ける。(公助)

#### <10年後の達成目標>

- ・全ての法令・条例・等が制定され、NPO等の数も倍増している。

# 「縁」のある「コミュニティ」の創造



- A: 「区民の生命の安全を守る」～防災対策
- B: 産業の創出・生産性の確保
- C: 区民の英知と持てる力の行使 = 中野力の活用
- D: ヒューマンスケールを基調とした生活都市・中野
- E: 環境保全・地域資源循環を目指した商店街の整備
- F: 生態系での関わりかた、区民の意識改革
- G: 環境保全・環境再生の実践の場の創造
- H: 地元暮らし、素敵に生きる  
～時間的な余裕
- I: 近隣商店街の再生 / 再構築
- J: 「ゼロウェイスト宣言」  
～ごみゼロ社会を目指す
- K: 有機物の域内循環の実現  
～バイオマス。コンポスト
- L: エネルギー生産の小型化・地域分散  
～エネルギーの地産地消の実現
- M: 一極集中から特色のある分散へ
- N: フットワークのいい公共交通機関の整備
- O: 新しいライブな文化の表出への支援
- P: 環境文化の構築～中野からの発信
- Q: 「中野文化」の再評価・資源化

## 資料編

次ページ以降の資料は、2003年11月現在の各チームでの議論をまとめたものです。

第1分野は 下記の経緯で本提案をまとめました

2003年4月～12月

小分類毎の4つのチームに分かれての議論

- ・まちづくりAチーム 中野全体のまちづくり
- ・まちづくりBチーム 中野駅周辺のまちづくり
- ・環境チーム
- ・地域産業・消費者チーム

2004年1月

- ・まちづくり
  - ・環境+産業
- の2チームでの議論

2004年2月

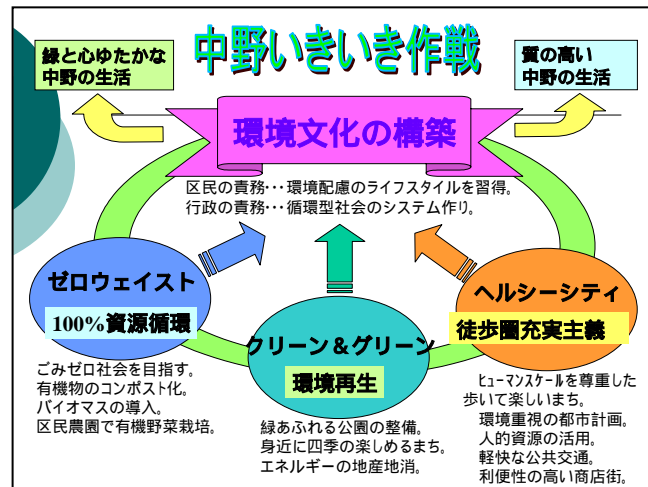
- ・全体での討議

チーム	各チームからの提案	現状	将来有るべき姿	10年後の姿	
井筒市	1 行政責任を明示する	現行構想では、行政責任については「施策の方向」が述べられているのみで達成責任について記述が無く、不十分である。また、行政の実行を担保されていない。	<改訂後>行政責任においてなすべき部分(公助)区民の自立にまかせるべき部分(自助)、両者のパートナーシップによるべき部分(共助)、に分けて各施策を記述するべきである。区の役割についてはPLAN+DO+CHECK+ACTIONの着実な実行を記述するべきである。		
	2 ビジョンの描き方を具体的なイメージで明示する	現行構想では抽象的な形容詞による記述が多く、具体的なイメージに乏しい。	<改訂後>理念は簡潔かつ高らかに宣言され、同時に、各理念を支える具体的施策の骨子が記述されるべきである。数値目標は「公助」の部分についてのみとする。なぜなら、「マニフェスト」は行政が責任を持つべきものだから。その数値や目標項目自体は(単に義務的に掲げられるのではなく)それぞれ明確な意味を持っているべきである。なぜなら、すべてを数値目標化はできないはずで、数値目標化できるものとできないものがあるからである。		
	3 基本構想を10年で区切ることに意味があるか?	まず10年にこだわらず、将来像を描く。10年はそのためのプロセス。展望的なことが重要。「近未来」がどうかは重要でない。		ロングスパンの内容と、それを実現する10年のプログラムとが分けて記述されているべきである。	
	4 構想ではハード志向のみではなくソフト志向の記述も			数値目標化にとらわれるあまり、数値化できないソフトの部分の記述が弱体化しないように注意すべきである。	
	5 循環型社会の方向性を明示	未だに「スクラップ&ビルド」の発想が各界に色濃く残っている。		ソフト・ハード両面における、ストック社会、循環型社会が実現している。	特に遊休施設の有効利用を図るべきである。
	6 用途純化の都市計画からの脱却			秩序ある混在型の土地利用。	区民全体に地区計画制度について情報が適切かつ十分に周知されている。地区計画制度を行政が本腰で推進している。混在型推進の関連条例が整備されている。地区計画の中で新防火地域についても検討されている。都市マスの「にぎわいの心」を実現するために、中野駅徒歩15分圏内の用途地域が見直されている。地区計画の推進と関連条例の整備が実現。駅半径歩15分以内は用途地域が見直されている。
	7 将来のニーズを正しくふまえて容積率を考えるべき	意見A:既にオフィスは床面積デフレ、住宅は戸数デフレで過密となっている。未来に負の遺産を残してはいけない。 意見B:活力のためには定住人口を増やす必要がある。		意見A:人口減少や成熟型のニーズに見合う適切な「グロス容積」と、ゆとりあるオープンスペース・緑・公共施設とで、まちが構成されている。 意見B:定住人口が増加し活力ある中野が、都市間競争に生き残っている。	意見A:過大な床面積供給による矛盾/将来の負担が理解され、また回避の手だてがなされている。 意見B:容積率緩和により、中野に人口が増えだし、資産価値も上がり、活力が戻ってくる。
	8 まちの価値を高めるために必要な規制条例を制定	「規制緩和」の誤った拡大解釈が蔓延している。		地域の自立や住民主体のまちづくりに必要な条例・規制が整備されている。 例:商業地域や近隣地域での指定道路の接道1階における住宅用途禁止条例など。ビルの窓ガラス等の反射を規制することにより、ヒートアイランド現象の抑制が図られている。	
	9 商業振興における小売業重視の明示	地域特有の構造的な商業の不振に対する施策が不十分。		典型的な開発でなく、中野の性格を活かした、周遊型・時間消費型のまちづくりが推進され、実現している。	ベンチャー産業を招致・育成する。ミニバスシステムを推進し、周遊性を向上させる。
	10 楽しく歩ける"みち"づくりの推進を明示(下記13もその一つ)	アスファルトだらけで潤いが無い。		全区において、インターロッキングブロック・煉瓦・石畳などによる舗装がなされ、ストリートファニチャーを工夫して、豊かさ・楽しさが演出されている。	駅半径15分以内は、全域、歩道部分や歩行者専用道路について左記が達成されている。
	11 防災的な都市空間の実現/耐火的共同化建て替えや耐震補強の推進	耐火的な建替え、あるいは耐震診断や耐震補強を住民がなかなか実行するに至らない。		全区的に、震度6強に耐えられるようになっていく。	共同化の優遇基準を満たす廉価な耐火工法が認知・普及されている。診断・補強の助成制度が確立され、また、周知されている。
	12 道路行政の見直し	区道レベルの計画が欠如している。		狭あい道路は最小限となり、親密性を重視して温存する場合も消火栓網が完備している。	直ちに区道整備計画を策定する。
	13 電線の地下埋設の推進	ほとんど地中化されておらず、楽しい「みちづくり」を阻害し、まちの格を下げている。		全区的に、地中配線が実現している。	駅半径歩15分以内は全て地中化が達成している。
まちづくり共通	14		狭小住宅(ワンルーム・マンション)の建築規制(規模の制限や課税強化など)を実施する。建築主または管理主に住民の一定の管理を義務付ける。		
	15		二世帯、三世帯住宅の建築奨励策(資金の融資斡旋など)を実施する。		
	16		狭小土地への建築抑制策(建築規制、課税強化など)を実施する。建蔽率の余裕に対する補助。緑化の推進。		
	17		住宅の高齢者対応を推進する。		
	18		商業街における建築物の様式(間口を一定以上広く取らせたり、商店として使えるための設備など)に一定の制限を課するか、一般住宅を建てる場合には、住宅地としての建蔽率を適用させるなど)を定め、町の環境の保全につとめる。		
	19		総ての道路に名前をつけ、道路標識の設置をすすめるべきである。名前は住民から募集し、区内として統一をはかる。住民は名前にふさわしい道路となるよう、花のある道、彫刻のある道、景観の良い道、安心して歩ける道など工夫により美しい道となるよう努力する。		
	20		狭隘道路を子どもが遊べる場所として開放するシステムをつくる。そのための条例などの整備を行なう。狭隘道路街区の消防システムを確立する。		
	21		公園の管理の地域への委託を推進する。それにより、地区にふさわしい公園に育ててゆく。公園の木、公園の花などを指定し美化をすすめる。		
	22		駐輪場の地下化をすすめ、駐輪場の不足を解消すると共に、まちの美化を推進する。		
	23		屋上緑化の推進。太陽エネルギー利用の促進。太陽エネルギー利用による自己充足の促進。		
24		街並み保全育成条例の制定。土地の利用に対する制限を強化し、街並みの保全をはかる。			
25		色彩の統一。街路を指定し、一定の色範囲の外観になるように誘導する。			
26		街路のバリアー・フリー化の推進			
27		西武新宿線の連続地下化を推進する			

チーム	各チームからの提案	現状	将来有べき姿	10年後の姿
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まちづくりB</p>	<p>1、警大跡地ゾーンの整備</p> <p>中野区の総合的発展と、中野区の活性化を計画、経済発展と文化の向上に向けて経済と文化の特区分とする。</p> <p>警大跡地とサンプラザを中野区が取得する。</p> <p>公益性と利用度の高い、区民が安全に避難できる防災拠点の公園(ホテルの生息も可能なビオトープ)と、温泉設備等生活環境向上の付随施設。</p> <p>警察病院は世界的レベルの施設 - 地元医師会と区役所が区民のために協定を結ぶ(人間ドック等)地域医療のセンターとして努める。</p> <p>発電設備併設のリサイクル型ゴミ処理施設。</p> <p>防災上問題を抱えた地区を解消する為、複合ビルの集合住宅(入居者多数の時は超高層化する)を建設することにより解決する。</p> <p>集合住宅を跡地に作る場合、低層とし超高層化は避ける。</p> <p>2、駅と南北駅前広場とその周辺(ゾーン:大久保通りと早稲田通りの間)</p> <p>中野駅と警大跡地を一体的に整備。</p> <p>駅の乗降客や歩行者と、自転車等との錯綜を改善整備。</p> <p>バスターミナル、タクシーの溜まり場、駐輪場等は地下にし、地下街を併設。</p> <p>駅改札口を警大跡地ゾーンに新設し2箇所にする。(東中野側と高円寺側)</p> <p>もみじ山文化センターから警大跡地に通ずる、専用の遊歩道(自転車道併設)を整備。(中野まつりや健康イベント、区民ふれあいの場)</p> <p>中野区は南北間と中野駅への交通を改善、バスターミナル(遠距離を含む)・自転車駐輪場を(二次元バーコードを使った)を設置し、高架下を商店街へ又は地下は環六まで通じる道路と駐車場、駐輪場等</p>	<p>・過密住宅が多数有り防災、防犯上 問題を抱えた地区がある。</p> <p>・容積率、建ぺい率、道、緑化の適性がない為、災害に弱い街、又防犯対策に 問題がある街となっている。</p> <p>・中野の街がJRで分断され産業商業等が発展しにくい。</p> <p>・駐輪場があるが中野駅前には自転車 が放置されている。</p> <p>・バスターミナル、タクシー乗場が歩行者にとって危険である。</p> <p>・場当たりのその場凌ぎの改善、改修の開発</p>	<p>・都市整備計画を行い、中野の賑わいのしんと なっている。</p> <p>・新整備計画ビルから駅がつながり、雨にも濡れ ず駅へ。</p> <p>・整備計画の基本理念の方向性を順守した、計画 の具現化</p> <p>・超高層化した建物の廻りにも花が咲き中野ブラ ンドの1つとなる。</p>	<p>・都市計画が実施され4LDK4500万円程度のファミリー住居が建設され 3000世帯 10000人の住宅、中野駅周辺となる。</p> <p>・中野駅の改札も増加し他区からも買物に集まる中野ブランドの商店街が 出来る。</p> <p>・この地域における区民の記憶の集積を持続し、商業活力の発展を目指 すとともに、提案各項目の整備計画を図る。</p> <p>・超高層ビルと共に緑と生き物が生息出来る街となっている。</p>
	<p>3、住宅地の保全と住環境整備</p> <p>生活道路における通過目的進入の自動車規制や通行障害物の電柱等の整備。</p> <p>震災火災時の建物の倒壊や出火、延焼拡大防止の対策</p> <p>条例等の附置義務の不履行、あるいは公的な場を私的に継続的使用等の対策。(例:自動車やバイク、自転車、ラックやコンテナ、物品や商品、ゴミ等々) ~ 災害時の避難や救助、救助活動の障害となり被災拡大の要因。</p> <p>道路、公園、みどり、日照、商店、公的施設。</p> <p>防犯対策。</p> <p>防火規制(10月より北部の上高田、新井、野方、大和町、南部は本一、弥生町、南台)に伴い住宅地の建物は、立体化、集合化、高層化が予測される。</p> <p>集合住宅を創設。</p> <p>風俗店が進出しないまちづくり。</p> <p>生産者と消費者を直結するまちづくりをする。</p> <p>鷺宮地区と中野駅に通じるコミュニティバスの運行を行う。</p> <p>4、早稲田通りの10年前からのCO<sub>2</sub>の測定結果は、年々悪化、大気汚染対策の 為、再道路の拡幅ではなく、地下化を推進。</p> <p>5、官民施設の導入の実施(文化特区) (演芸場、映画館(シアター)、温泉、アニメーションプラザ、住宅、商業、学校(大中小)、医療、福祉、公園、区役所、税務署、野方警察、都税事務所、体育館、文化(大道芸人の場所)、スポーツ施設、観光(サンプラザ施設等)、困町を活かした 公的場所</p>	<p>・警察大学が移転してから中野北口周辺に風俗店が 出店。</p> <p>・狭い道路が多い為、自動車が通り抜け出来ない。(交通事故が多い)</p> <p>・震災火災に弱い街となっている。</p> <p>・左記に対する手法・対策・政策と、区民との間のコン センサスが乏しい。</p>	<p>・経済特区となり新しい中野の街が出来、多くの 人々が集まり新しい21世紀の住みやすい住居と 商工業が共存出来ている。</p> <p>・「安心して暮らせるまち」として内外から感じ取ら れる中野となっている。</p> <p>・計画手法にソーシャルミックスの導入</p>	<p>・地上、又屋上にも緑化が推進され環境にも配慮された街となる。</p> <p>・主要道路は地下化され地上道路は交通量も減少し交通事故も減少す る。</p> <p>・過密地区の住居が改善され(等価交換、換地等)狭い道路が無くなって いく対策が具体的に進んでいる。</p> <p>・地区の固有性や特殊性を順守し、提案の実現を試みる、行政と区民が 対策等を立ち上げる場を創設。</p>
	<p>6、未来志向において「持続可能な活力あるまちづくり」には区民の記憶の集積で ある過去の街並みを如何に持続可能とするか、その中で地域の緑を守り、区民 の共有の財産として、いやし、やすらぎ、潤うために、人々の暮らしに役立つため 緑を育成し、生き物が生息できる空間を作ること。</p>	<p>・過去の文化的遺産を守り保存する施策、歴史的な地域の固有性を尊重し、生活者の活力のあるまちの開発と発展を図る。</p>		
	<p>7、施策の具体化</p> <p>事業体を明確化し、経済的な裏づけをする。</p> <p>計画は、事業年度を定める。(2年、5年、10年)</p> <p>基本構想策定後の検証機能</p> <p>街路樹</p> <p>中野駅北口・・・さくら</p> <p>中野駅南口・・・もも</p>	<p>・区財政が赤字であり新規事業計画が実施しにくい。</p> <p>・区財政の見直しを進めている。</p>	<p>・中野区の新しい計画、ビジョンにより住民、商 業、産業が新しく生まれている。</p> <p>・中野の街化桜と桃の植樹の為NPO等が資金集 め活動を行っている。</p> <p>・中野駅北口より哲学堂にかけてより美しい街並 み生まれ中野駅南口は桃の花が 咲く美しい中 野の街となっている。</p>	<p>・区民税の増加</p> <p>・区債の発行</p>

# 持続可能なまちづくり～『環境モデル都市・中野』

	主要施策（提案）	現況や現基本構想	将来のあるべき姿	10年後の姿（10年間の取組み）
<b>総論</b>				
総論	環境文化を構築する。	・現行基本構想策定当時の環境行政の課題は、「健康被害(公害)の防止」であった。 ・中野区の都市環境は過密・劣化している。 ・環境負荷が大きくなり、地球規模での環境破壊が進んでいる。	環境文化に根ざした社会(仮称：エコトピア)が構築されている。	10年間を、社会や多くの区民が環境文化に根ざした循環型社会への転換を認識するための準備(訓練)期間とする。 行政は循環型社会のシステムを構築する。 区民は環境配慮のライフスタイルを習得する。
<b>クリーン&amp;グリーン ～環境再生～</b>				
環境保全・環境再生	人間も地球の生態系の一部。自然は人間が利用するためだけにあるのではない。	・人間の生存には緑(植物)が不可欠であるにもかかわらず、人の都合や経済が優先される社会となっている。	都市においても人と自然の共生・共存が図れた社会となっている。公園には緑があふれ、まちなかでも四季が感じられ、自然に身を浸すことのできる環境がある。	植樹の推進や樹林を保護し、公園や緑地の整備を進め、環境教育を充実させると共に、個人や組織が一層の「環境保全・環境再生」に務める。 緑化は区民の義務として、住居周辺の緑化や壁面・屋上緑化等を推進する。 四季を楽しめる街にするため、水路は親水護岸に再整備する。
エネルギー	エネルギーの地産地消に取り組む。	・大型発電中心の電力供給体制と化石燃料依存の燃料供給体制である。	自然エネルギー(風力・水力・太陽光等)小型発電や、環境に優しいエネルギーが普及した社会となっている。	エネルギー生産の小型化と地域分散化を推進すると共に、環境負荷の少ないエネルギーを積極的に導入する。 区有施設には自然エネルギー発電設備を設置し、民間大規模建築物には条例で設置を義務付ける。
<b>ゼロウェイスト ～100%資源循環～</b>				
ごみ減量	ゼロウェイスト宣言を行い、ごみゼロ社会を目指す。	・焼却や埋立による廃棄型処理が行われている。	廃棄物は循環型処理が原則となっている。	ゼロウェイスト宣言のもとで、住民・企業・自治体が知恵を出し合いながらごみの減量に取り組む。 4L&7Rを社会に浸透させる。
有機物循環	生ごみや落ち葉・剪定枝等の有効活用を図る。	・生ごみは焼却処理後に埋立てられている。 ・巨樹や樹林の落葉処理に困っている。	有機物が資源化されて循環し、土壌も保全された地域となっている。	生ごみや落ち葉・剪定枝等のコンポスト化を推進し、併せてバイオマスの導入を図る。 地域分散でコンポスト化を推進し、コンポストを中野の特産品化する。 区民農園でコンポスト化して土に還元し、土壌の保全を図る。
区民農園	区内各所に区民農園(仮称：コミュニティガーデン)を多数整備する。	・区内一カ所にしか区民農園が無い。	区内各所に区民農園が整備され、コンポストによりおいしく安全な野菜が生産されている。区民農園のレストハウスにはコミュニティレストランが併設されている。	学校等の統廃合によって発生する土地や、未利用区有地に区民農園を多数整備する。 区民農園は、有機物(生ごみ・落ち葉等)の循環を図る場、区民が有機物の循環を体感したり土に触れる場、環境・情操教育の場、高齢者や障がい者の社会参加の場、区民の憩いと交流の場等とする。 安全でおいしい有機栽培野菜の食べられる区とし、スローフードの普及も図る。
<b>ヘルシーシティ ～徒歩圏充実主義～</b>				
都市計画	ヒューマンスケールを大切に「生活都市・中野」の再生へ転換させる。	・通過交通のための道路整備による弊害の発生している。 ・住宅密集地域が形成され、住環境が劣化している。	まちで生活する人を中心にしたまち「生活都市・中野」が再生されている。	まちで生活する人を中心にした、歩いて楽しく、景観に配慮した衛生的なまちづくりを推進する。 土地については、高度利用から適正利用に変更するなど、環境重視の都市計画に転換させる。 大規模未利用地は中野区再生のための公園として整備する。
人的資源	区民の知恵や力を活かし、永く気持ちよく暮らせるまちの再生。	・23区中で最も人口密度の高い中野区には若年人口が多いが、地域の活力に結びついていない。 ・地域全体の高齢化が進行している。	永く気持ちよく暮らせる美しいまち並みが形成され、中野の暮らしを誇りに思う、長期定住者が多いまちとなっている。	若年人口のパワーを地域の活力として取り込むため、若者のパワーが発揮できるようなステージやオープンスペースを整備し、街の核にしていく。 余剰施設等を活用してコミュニティハウスを整備し、地域の核とする。
公共交通	軽快なフットワークのあるまち。	・バス路線は中野駅に集中するが区内各所からアクセスが悪い。	南北幹線道路には人や環境に優しいライトレールが運行され、駅～公共施設～商店街～公園を結び、バス路線と共に公共交通で十分に暮らせるまちとなっている。	新規ルートでのミニバス運行や既存バスルートの見直しで、公共交通のネットワークを改善させる。 公共交通の定時性やフリーケンシーを高める等で、放置自転車問題も解決させる。
商店街	中野ブランドを持つ商店街をサポートする仕組み。	・大型店やチェーン店の進出や後継者難で個人商店の店じまいが発生し、商店街が衰退している。	緑あふれ、環境が保全された地域に、利便性の高い商店街が形成され、中野で暮らし続ける満足度や安心感が高められている。	土曜日曜の営業や「安心の食生活」「保育」のサポート、高齢者障害者へ宅配サービス等、商店街で買い物することがメリットとなるようなサービスを提供する。 商店街として環境保全に取り組み、商店街での買い物が環境負荷軽減につながる仕組みを作る。



## <環境班としての特記事項>

警察大学校等跡地（以下「警大等跡地」）の取扱いは、中野のまちづくりを考える上で避けることの出来ない事項である。環境班としては、警大等跡地の取扱いについて、次のように考える。

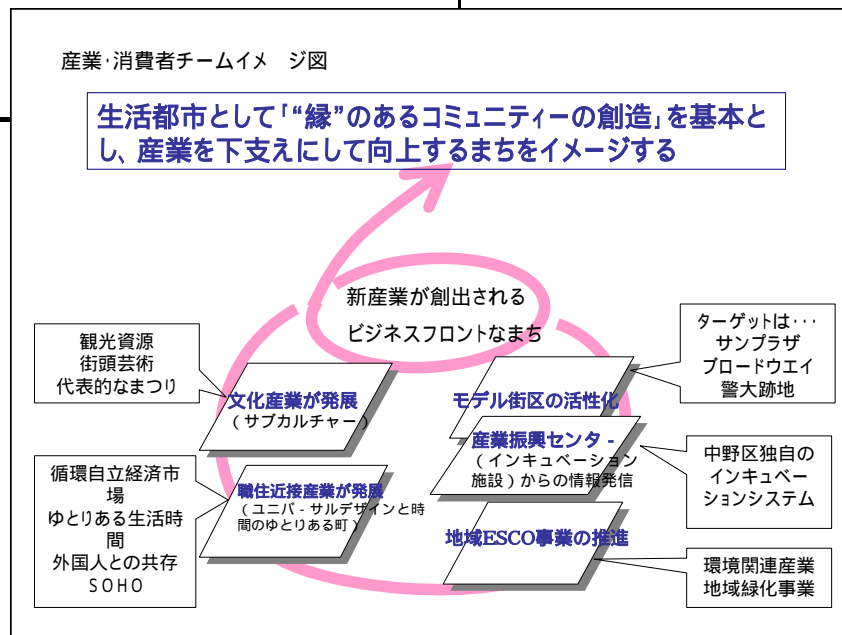
警大等跡地は、「持続可能なまちづくり」を目指す中野区の社会的共通資産として、“環境に配慮をめぐらせた21世紀型の基本構想（今回策定の新しい基本構想）”の中で扱われ、位置づけられるべきものである。人口密度が全国トップで、建て詰まり感が強く、東京西郊木造住宅密集地帯の中央部に位置する中野区は、それだけでなく空地（公園）面積が23区内で下位から2位である。基本構想の中で、社会的共通資産としての警大等跡地の活用を検討するにあたっては、これまでにのべたような状況に置かれた中野区であればこそ、**災害・非常時における区民の生命の安全の確保、平常時においては区民の心身の健康増進を図るため、その活用方法を決定していかねばならないもの**と考える。

1. 警大等跡地に「60階超高層マンション」を建設することは認められない。公共の大規模空地を、民間活力導入の名のもとで、民間主導の土地利用に委ねることは環境班として反対する。計画は、区のコントロールのもとになければならない。超高層ビル周囲の空地は、ビル風や日陰で快適な空地にならないのは自明のことであり、エネルギーの高度消費、ヒートアイランド化の増幅、周辺への電波障害なども発生する。また、居住空間としても居住者の心身への悪影響が考えられる。盆地状地下構造の関東平野における超高層の建築物の安全性について、最近、疑念が提起され始めている。また、ここで明確にしておかねばならないのは、超高層マンションの建設が、木造住宅密集地帯の住宅の建て替えに、ほとんど結びつかないという点である。論じられている地域の居住者の意向確認もせず、個別具体的な計画として建て替えプランを基本構想に盛り込むのは基本構想の趣旨に反している。

2. 木造住宅密集地帯を擁し、人口密度が全国トップである本区において、住環境の改善には地道な取り組みが求められる。まず手がけなければならないのは、**災害・非常時における防災の観点からの、広域避難場所の確保や整備である。住民にとって区役所は、頼ることの出来る最後の防波堤である。区の最大の責務は、住民の生命(安全)と財産を守ることにある。**中野区は、その当然の責務を忘れないでいただきたい。

3. 永い年月をかけて成長した警大等跡地内の樹木群は、都市化された中野駅周辺における非常に貴重な緑の財産である。樹木群は中野にうおいや魅力を与え、区民共有の資産と位置づけられる。このことに関し、中野区は十分に認識し、区民の意向を尊重するべきである。

チーム	各チームからの提案	現状	将来有べき姿	10年後の姿	
産業	産業の創出・生産性の確保 「地域ビジネスコミュニティのまち」 「産学協同支援」	マッチメイクの役目の欠如 川の文化、醸造系の立地 昔から加工食品産業の立地 生産性の欠落 「食」で特色化 人的資産、知恵の宝庫 中野通りには楽しめる場所多数	循環型・自立型 都市の形成 地域産業の再生 センターとしての中野駅前再開発 産業コア施設地区の整備 警察大学跡地開発 雇用に繋がるスキルアップのための ビジネススクール 職住近接の実現 環境立区中野	情報が行き渡っている 各種再開発に着手している / システム再開発の推進 環境ビジネスの実現 中野地ビールの生産	担い手 具体的アクションプラン ~ ビジネスモデルイメージ 区 区民 民間 NPO ・人材バンクデータの整備と活用 ・街角ネットの整備 ・CTN全世帯接続 ・専門学校との区民学校化 ・産業推進事業体設立 ・廃棄プラスチックの油化 ・バイオマス発電産業 ・地ビールの醸造 (なかのホトギスビール)
	一極集中から特色のある分散へ 自立可能な「生活都市中野」	中野駅中心地区の活気と近隣商店街の衰退 中心へ行きにくい ゆっくり動けるルートがない 地元で働けない 魅力的なものがない	地域特性の活用 カーフリーゾーンの設定 用途別道路使用区分の設定 商店街運営システムの改善 縦、横、斜めの動き 水でつなぐルート サンブラザの運営 NPO法人の設立 施設管理・環境モデル	地区ごとの役割分担 公共交通機関の運行がスムーズになり、みなが利用している 区民の基金で樹木を植える	担い手 具体的アクションプラン ~ ビジネスモデルイメージ 区 区民 民間 NPO ・井戸水の活用モデル。 ・新たな移動手段運営会社 / NPOコミュニティバス等。 ・個々の生活時間に合わせた移送サービス事業。 ・川の文化と井戸の存在のビジネス化。 ・桜まつりの通年化。 ・中野観光資源(売り物)再発見事業。
	近隣商店街の再生	生鮮産品店が減少し、生活必需品を地元で購入する割合が減っている 生活者の生活スケジュールにあっていないため客離れを起こしている 後継者を育てる時間がないため、事業の継続ができなくなり、閉店が出ている	都市農業での供給 地元で生活必需品が安定して供給されている 地元での営業が「就職先」として理解されている	安心な生鮮三品の提供 地方との連携 チャレンジショップの導入 ライフサービスの提供 後継者問題で店じまいすることを無くす	担い手 具体的アクションプラン ~ ビジネスモデルイメージ 区 区民 民間 NPO ・障がい者パン工房。 ・地域通貨 = タイムファンドの設立。 ・こだわりの豆腐 / 三次産業の創出 ・街角音楽家などの商店街イベント / 出演のマネジメント会社 ・インターシブ支援での地元就労者の増加
	地元で暮す、素敵に生きる 時間的な余裕を持ちながら暮らせる中野	民族舞踊や街角音楽家が日々 商店街の衰退など、雇用場所の減少	時間を楽しむ店などが多数あり、それぞれの経営も成り立っている 自分でもできる? という気になる	得意分野で起業できるノウハウや支援を行い、起業家が増えている	担い手 具体的アクションプラン ~ ビジネスモデルイメージ 区 区民 民間 NPO ・商店街でSOHO ・家庭的惣菜づくりと高齢者食事サービス ・高齢者食堂の運営 ・地域通貨 = タイムファンドの設立 時間のストック / 時間の貸し借り
	新しいライブな文化の表出 文化のインキュベート	民族舞踊や街角音楽家が日々訪れている サンモールにストリートミュージシャンが来ている 地元で音楽活動などを行っている人が大勢いる 騒音扱いされている	毎日が自主的イベント 人の活動シーンが環境に溶け込んでいる 人の活動シーンが日常の風景になっている 大きなまつりでも注目を集めている	アート＆パフォーマンス インスタレーションのまち 音やパフォーマンスを中心としたまつりに変わっている	担い手 具体的アクションプラン ~ ビジネスモデルイメージ 区 区民 民間 NPO ・浴衣のできるまつりを創り、浴衣や着物を普段着感覚にする。デザインフォーマーとしてファッション学園に活躍してもらおう。中野が着物のまちになって地場産業となる。 ・まつり等の歳時記イベント化。



### 「緑」のあるコミュニティの創造

人口密度日本一の中野区最大の財産は、区民の知恵である。活力を取り戻し、永続的な発展を可能とさせるためには、区民同士のつながりを再構築し、区民一人一人が持てる力を自覚し、活かし、経験が結びつくことにより多重構造の地域社会を作り出さなければならない。そのためには、右肩上がりの経済成長をベースにした図式から環境負荷とのバランスを重視した、地域の自立的循環を支援・促進する社会を築く必要がある。

### イメージターゲット

- ・時間的な余裕が持てる「時裕人」のまちづくり
- ・まちを豊かにする環境・教育・福祉をターゲットとした「コミュニティビジネス」が発展するまちづくり

第1分野ワークショップメンバー（50音順）

氏名	備考
安達 治雄	サブリーダー
飯富 幸吉	
稲葉 和立	
井上 一行	
今井 辰哉	
海老沢 憲一	
大沢 清高	
岡田 弘道	
奥山 欽子	
加藤 まさみ	
黒田 隆二	
小池 勝昭	
後藤 淳子	
小林 義人	リーダー
小山 幸夫	
笹川 克巳	
佐藤 博	
下川路 正	サブリーダー
寺崎 務	
羽尾 貞夫	
羽深 千恵子	
林 孝子	
樋口 修	
平塚 光雄	
藤江 三千	
増崎 耐介	
村田 哲	
森田 裕一	サブリーダー
安田 護朗	
山岸 厚	
吉村 芳明	

ほか 登録人数全61名